

植込み型心電用データレコーダ (ILR)

12 誘導心電図検査やホルター心電図検査など、いろいろな検査をしても失神の原因がわからない場合には、植込み型心電用データレコーダ(以下 ILR)植込みの適用となります。

ILR は、1ヶ月に1回起こるか起こらない頻度の低い失神に対して、数か月にわたり心電図を観察するために使用します。この小さな機械は電池寿命が約3年で、その間植え込んでおくことが可能です。

ILR を植込み、心臓のリズムを継続して観察することにより、あなたの失神発作が心臓の病気が原因で起きているのかどうかわかります。

ILR の植込み

ILR は左前胸部の皮下に植え込むだけのとても薄い医療機器です。植込みにかかる時間は 15-20 分程度で、外来でも植込み可能です。局所麻酔で皮下にいたら、切開部分を縫合して手術は終わりです。

ドレッシング剤とよばれる薄いフィルムのようなテープを傷の上に貼られ、いつはがせばよいのか指示があります。感染のリスクを下げるために抗生物質が処方されます。

入浴したりシャワーを浴びたりすることはできますが、傷口が完全にふさがるまで、清潔で乾燥した状態を保ちましょう。

ILR を植え込んだ後の生活について

植込み後、病院で ILR の設定を行います。この設定は 2、3 分で終わります。設定やデータの収集は無線通信で行われますので、痛みはまったくありません。

また、自分で ILR に心電図を記録させるアクティベータと呼ばれる機械も渡されます。アクティベータの使用方法については医師から説明があるでしょう。

エピソードの記録方法

ILR は失神中の心電図を記録することができます。この記録をみて、失神の原因が不整脈だったのか、または不整脈が原因ではなかったという診断をすることができます。

失神中の心電図を記録するためには、ILR の上にアクティベータを持って行って、ボタンを押します。ILR の上でボタンを押すと、ILR はボタンを押した時点から一定の時間さかのぼってデータの記録を始めます。この操作は症状が起きている間か、意識を失って回復してからできる限り早く行ってください。

いつでも記録できるように、アクティベータは常に携帯しておくことが大切です。

失神したらすぐに病院に行きましょう。そして病院で ILR の中に蓄積されたデータのダウンロードを行います。

ILR の摘出

失神発作時の心電図が記録され、不整脈が原因で失神が起きているのかそうでないのかをはっきり見極めることができたなら、ILR を摘出します。摘出するときの手順も植込み時と同じで、局所麻酔で簡単に取り出せます。外来でも可能です。

著者: Dr Matt Fay, GP
日本語訳: 松田佳菜子
日本語訳監修: 産業医科大学病院 安部治彦、
慶應義塾大学病院 鈴木昌
Approved by: STARS Medical Advisory Committee

お問い合わせ先: Info@stars-jp.org

Founder and Chief Executive: Trudie Lobban
Trustees: Susan Broatch Andrew Fear Rose Anne Kenny
Cathrine Reid William Whitehouse
Registered Charity No. 1084898 ©2010